

学習者にとってロシア語の国際性とは何か

— 問題提起にかえて —

小林 潔

Keywords: Russian language(s), Russian language Education

1. はじめに

本稿¹では幾つかの事実を確認しキーワードを挙げることでロシア語の国際性をめぐる問題の所在を探りたい。国際性という以上、世界のあらゆる場面でのロシア語使用を考えるべきであるが、本稿の関心は非母語話者にとってのロシア語、すなわち異言語としてのロシア語である。異言語としてのロシア語といっても、外国語としてのロシア語(русский язык как иностранный)、非母語としてのロシア語(русский язык как неродной)、第2言語としてのロシア語(русский язык как второй)などが考えられるが、なかでも外国語としてのロシア語および日本人学習者との関わりを考察の中心とする²。

まずはロシア語がどのようなものであるかを確認する。その上で、国際語としてのロシア語や、どのようなロシア語が求められるのかといった議論につなげる。

2. ロシア語とは

ロシア語は以下のような言語であると示すことができる。これは筆者達が第12回 МАПРЯЛ [国際ロシア語ロシア文学教師連盟] 大会(於上海)で確認したことでもある。政治経済を取り上げなければ、ロシア語は、

- ・世界の文化を担う大言語の一つであり
- ・ヨーロッパの言語の一つであり
- ・旧ソ連の諸民族の言語でもあり
- ・東アジアで用いられている言語であり
- ・日本の隣国の言語でもある³。

文化的価値に関しては、そもそもどの言語にもかかる価値があるし、ロシア語で作られ

¹ 本稿は筆者による以下の報告をもとに加筆し稿をあらためたものである。

2011年度神奈川大学国際交流事業「シンポジウム・ユーラシアを研究する『日露の交流と言語教育～ロシア語の新たなる国際性』」(2012年3月24(土))<セッション1 ロシア語の国際性をめぐって>「学習者にとってロシア語の国際性とは何か 一問題提起にかえて」

² 英語教育研究では「学習者」「使用者」の区分を重視する(藤原2012)。ロシア語教育研究でもこのような区分やРКИ, РКНなどの概念整理が必要だと思われる。

³ Цуцуми, Кобаяси(2011)およびКобаяси(2013)を参照されたし。

た文化は、事実として、世界中で重んじられ研究され紹介・享受されている⁴。高等教育で用いられる言語でもあり、「数年前には〔ロシアへの〕外国人留学生が 145900 人を数え、今も、その数は増え続けている」⁵とされている。日本国文部科学省によれば日本にきた「2012 年 5 月 1 日現在の留学生数は、137,756 人」⁶とのことだから、国の規模（人口）を考えれば日露は同程度といえる⁷。もっとも、世界の大学ランキングに入る教育機関が多いというわけではなく、ロシア政府は予算を組み対策を立てるといふ⁸。

ロシア語は、2013 年時点、インターネットで 2 番目に多用される言語であるともされ⁹、デジタル時代にも生き残る大言語の一つであろう¹⁰。また、国際連合（連合）の 6 つの公用語（アラビア語、中国語、英語、フランス語、ロシア語、スペイン語）の一つでもある（但し作業言語ではない）。

ロシアとヨーロッパとの関わりはかねてより議論されているところであるし、トレルチ流のギリシャ哲学・ローマ法・キリスト教の三要素をヨーロッパ文明と見なす立場から言えばロシアはヨーロッパ文明に属さないのだが、言語の系統の上でも形成過程に於いても、そしてロシアとヨーロッパとの歴史的関係に於いても、一部のロシア語使用者（ロシア人）の自己意識に於いても、ロシア語はヨーロッパ諸語に属するとは言いうる。

とまれ、ロシア語はまず何よりもロシアという国に住むルーシ民族の言語であり、ソ連時代には連邦の事実上の公用語であった。ソ連崩壊後もロシア連邦共和国という国の国家語でもあって、これはロシア連邦憲法第 68 条でも「ロシア連邦全領域の国家語

⁴ ロシア文化研究が制度化され権力構造に組み込まれているといった話は興味深いだが別の事柄である。ここでは、ロシア国外でロシア文化研究・教授を職業としている人の存在、大学の講座にロシア文学科があってそれなりの規模の学会もあることを指摘すれば十分である。

⁵ http://roshianow.jp/society/2014/01/14/10_46733.html 訳注は小林による。

⁶ http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/02/1330698.htm

⁷ もっとも、2008 年でアメリカには 671616、イギリスには 415585、フランスには 266400、ドイツには 233606、オーストラリアには 355802 人、2009 年の日本には 132720 人の留学生が在籍していた（奥村 2011:1）。日本やロシアよりも人口の点では小さな諸国であっても、受け入れ留学生数は多い。

⁸ http://roshianow.jp/society/2014/01/14/10_46733.html

なお、ロシア連邦文科省の外人向け教育紹介サイト（Министерство образования и науки Российской Федерации 2006-2013）は、ロシア語、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、ウクライナ語、カザフ語、中国語、アラビア語、モンゴル語、ベトナム語、モルドバ語、ルーマニア語、トルコ語の 16 言語でページを開設している。これらの言語が使われている諸国が教育という場で自国と関わるとのロシア側の認識を示していると言える。

⁹ http://ru.wikipedia.org/wiki/Русский_язык

¹⁰ 情報通信技術（ICT）の展開は、世界の諸言語の使用を盛り上げると同時に、大言語への集約を促すファクターでもある。ICT は距離や時差を越え、世界に散在する話者のコミュニケーションを可能にする。アフリカと日本のカヌリ語話者が個人レベルでリアルタイムのやりとりすることも技術的には可能となった。また Wikipedia の使用言語は 2014 年 1 月 1 日現在 287 言語である

（<http://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia:全言語版の統計>）。個々の記事の信頼度はさておき、パソコンとインターネットがあれば 287 言語で百科事典の記事執筆および講読参照というある程度知的な営みが世界中で、当該言語の使用地域から遠く離れたところであっても、可能である。技術的にはカヌリ語の記事を日本で読むことも書くこともできる。一方で、広く読者を求めるとなれば多くの人を使う言語を、その言語を母語としていなくても用いるようになる。福島在住者が英語で書いても 30 年前は外部世界に伝える道は限られていたが、現在は、そうした発信を受けて世界各地の人々が即座に共通の話題にすることもありうる。こうした状況を踏まえ Kornai (2013) は世界の諸言語の 5 パーセントしかデジタル世界では生き残れないのではないかとしている。

(государственный язык)はロシア語である」と規定されているところである。ロシア連邦は、旧ソ連時代から多民族国家であって¹¹、そこでもまた現在でもロシア語は複数の民族間のやりとりで使われる族際語(язык межнационального общения)である。ロシア語の位置は、かつてほどの強固なものではなく、実際面でも問題が生じてはいるし(学校の教授言語がロシア語である地域にも拘わらず、ロシア語を習得しないまま初等教育機関入学を迎える児童も存在する(Кряхтунова 2013))、ロシア国内の少数言語の保護・発展を志向する向きもある¹²。しかし、連邦全体の政策面でもまた実際面でもロシア語の位置は未だ揺らいでいない。ロシア連邦大統領が、何らかのパフォーマンスは別として、ロシア語以外で大晦日の演説をすることは想像すらできない。但し、政府にも危機感はある、2011-13年の3年にわたり「種々の教育機関に於ける非母語ロシア語教育の諸問題に関する専門家・教師の資質向上プログラムの立案・認可・施行」«Разработка, апробация и реализация программ повышения квалификации специалистов и преподавателей по вопросам преподавания русского языка как неродного в образовательных учреждениях разных типов и видов»が進められた。この企画の目的は、2011-15年の連邦「ロシア語」プログラムの「ロシア連邦諸民族の族際コミュニケーション手段たるロシア語の機能化の条件作成」«Создание условий для функционирования русского языка как средства межнационального общения народов Российской Федерации» Федеральной целевой программы «Русский язык» на 2011 - 2015 годы である¹³。このプログラムの推移については、ロシア国外のロシア語教師もある程度フォローしていくことになる。なお、こうした多民族の言語はロシア語教材にも反映されており、例えば Гончар (2010)では、ロシア連邦内の諸共和国を題材としている。ロシア連邦が多言語国家であるという感覚は日本のロシア語教師にも学習者にもいまだ少ない。ロシア連邦の研究者ではなく、まず何よりもロシア文化研究者として育成されてきたロシア語教師が多いからだと考えられる(もちろん、顕著な例外はあるし、社会科学系の研究者がロシア語教師をつとめていることもある)。

ロシア語はロシア連邦内のみならず、それ以外の旧ソ連諸国の共通語でもある。公用語とされているのはロシア連邦以外で、ベラルーシ、カザフスタン、キルギスタン、未承認国家トランスドニエストル、アブハジア、南オセチア、ウクライナ内の諸地域である。公用語でなくともロシア語が通用する国・地域も多い。そうした地域にはロシア語学校も存

¹¹ 2010年の統計によれば、ロシア国内には193民族が暮らし、言語は171語、国の教育システムで使われている言語、すなわち学校での教授言語は89言語という。

<http://государство.президент.рф/главная/16292>

¹² ロシアの多言語状況は、自国にロシア語話者を抱える周辺諸国にとっても関心の対象である。フィンランドではМАПРЯЛの企画の一環で Замятин и др. (2012)が刊行されている。

¹³ <http://www.russkiymir.ru/russkiymir/ru/publications/articles/article1125.html?print=true>

および <http://pro100media.ru/articles-1.html>

なお、後者の記事には「ロシア語は、歴史的に認められた諸文化間コミュニケーション手段 Русский язык — исторически признанное межкультурное средство общения」との見出しがついている。諸民族間のコミュニケーションは諸文化間の交流であり、それを保証するのがロシア語であるということなのだろう。

在する。公教育では、ロシアでは 97%、ベラルーシでは 75%、カザフスタンでは 41%、ウクライナでは 25%、キルギスでは 23%、モルドバでは 21%、アゼルバイジャンでは 7%、グルジアでは 5%、アルメニアとタジキスタンでは 2%の学校で教授言語としてもっぱらロシア語が用いられている¹⁴。このような事情は、フランス語圏文学研究のようなロシア語圏文化研究を可能としている。しかし、より即物的に見れば、これはロシア連邦への移民問題と直接関わる事柄である。移民人口で言えばロシアはアメリカについて世界第 2 位である¹⁵。ロシア連邦の移民問題はかつて言語と文明を共有していた旧ソ連邦諸国からの移民があることで、たとえばドイツにトルコ人移民が多いのとはまた違った問題になる。移民問題も Голубева (2011)などのロシア語教材に反映されはじめている。移民対象のロシア語教科書が作られ¹⁶、非ロシア人労働者対象のロシア語テストの導入も見られる¹⁷。

このほか、ロシア語が響く国々としては、旧ソ連はもちろんのこと、フィンランド（人口の 1% = 5 万人がロシア語話者（須佐 2012:65））やドイツ¹⁸といったヨーロッパ諸国、ロシアからの移民がいるイスラエル、オーストラリア、アメリカといった諸国があげられる¹⁹。日本もそうであり、韓国釜山にはロシア人街すらある²⁰。ロシア連邦の領土が東アジアにまで至る以上、ロシア語が東アジアで用いられていることは当然である。

翻って日本の地理的地政学的な位置、すなわちどのような隣国があるかを思い起こしてみれば、世界第 9 位という日本の排他的経済水域で接する諸国は、ロシア、アメリカ、北朝鮮、韓国、中国、台湾、フィリピンであり、ロシア語は間違いなく隣語²¹の一つである。ロシア語が隣語であるということは卑俗なところにも如実に表れている。東京三弁護士会・刑事弁護センター『当番弁護士マニュアル』内の「外国人被疑者接見時差入れ文書」（2007年 06月 01日改訂版）は、いわゆる外国人犯罪容疑者に弁護士がその権利などを説明する文書であるが、日本語を含めた計 15 言語で掲載されており、その中にはロシア語も入っているのである²²。つまり、日本で犯罪——犯罪もコミュニケーションの一つの形態

¹⁴ Ministry of Education and Science of Russia (2006-2013)内 <http://en.russia.edu.ru/russian/ref/>

¹⁵ <http://esa.un.org/unmigration/wallchart2013.htm> /これによれば 2013 年で世界の移民人口は、アメリカ合衆国が 4,580 万人、ロシアは 1,100 万人、第 3 位のドイツが 980 万人である。

¹⁶ 2013 年 7 月 3 日の報道では、ロシア正教会が移民のためのロシア語教科書を編纂したとある。
<http://itar-tass.com/obschestvo/628389>

¹⁷ 例えばモスクワ大学でもそのような試験を実施している。

http://www.russian-test.com/tests/test_for_migrant_workers

¹⁸ 「1999 年から 2009 年の 10 年にドイツに来て在留している約 280 万人の移民〔中略〕3 分の 1 は、旧ソ連/独立国家共同体(CIS)出身者で、特にロシア出身が多い。ロシアをルーツとする者は、ドイツに居住する移民の 14% を占め、その多くは後期帰還移住者であると考えられる」（独立行政法人労働政策研究・研修機構 海外労働情報（2012））。

¹⁹ ロシア国外のロシア語話者に関する研究は近年、日本でも進んでいる。

²⁰ 2010 年 3 月筆者調査。また、「ロシア・コリアンのネットワーク形成」としてサヴェリエフ (2010) がある。

²¹ この用語は、公益財団法人国際文化フォーラムが中国語・韓国語教育の側から提唱され始められたもので (<http://www.tjf.or.jp/ringo/>)、最近では、地理的な近さだけでなく学習者にとっての心理的な近さをも考慮に入れていると聞く（境一三：私信）。

²² 0. 日本語, 1. 英語, 2. 中国語（北京語）, 3. 韓国・朝鮮語, 4. タイ語, 5. ペルシャ語, 6. タガログ語, 7. スペイン語, 8. ウルドゥー語, 9. ベンガル語, 10. ベトナム語, 11. シンハラ語, 12. ポルトガ

——を行う可能性のある人としてロシア語話者が想定されている。もちろん、これは極端な例であって、日露関係は他の平和な面でも着実に進んでいる。経済交流はもちろんのこと防衛交流さえ進展がみられると言う²³。日露学生交換を5倍にしたいとの日本国文科大臣の発言も報道された²⁴。2014年は日露武道交流年でもある。日露交流の場面が増えているのは確実で、かねてより日露交流に関わっていた人の活動が更に目立つようになっただけではないと言えよう。場面が増えれば関係者も自ずと増える。

かくしてロシア語は、旧ソ連を中心とした多民族国家で使われている実用の言語であり、依然として教養の言語という二つの側面を持つ。日本の大学にロシア文学科が存在するのはロシア語の実利面だけが理由ではない。そして、二重性はロシア語それ自体に内包されている。ロシアそれ自体が西洋でもありアジアでもあり（それゆえユーラシアという言葉を我々も用いる）二重性を持っているように、その言語も西洋言語でありアジアの言語でもある。もとより隣語である。ロシア語教育を考え営むに当たっては、こうした事情を意識せざるを得ない。但し、教育現場に於いては実用言語・教養言語の二分法よりも、どのようなロシア語をどう教えるかが問題となる。

3. ロシア語学習

ロシア語は上記のような様々な属性を持ちながら、ロシア本国でも諸国でも日本でも学習の対象となっている。学習課程としては専攻課程と非専攻課程がある。両課程ともにロシア語が持つ様々な性質を考慮すべきで、上述の事実に加えて、言語的な性質（学習者の母語とロシア語との言語的距離など）、社会的歴史的あるいは経済的な性質を考慮することになる。専攻課程の学習者といえども全員が象牙の塔に籠もるためにロシア語学習に励むのではないから、いわゆる俗世の事柄も関わってくる。その上で、非専攻課程のロシア語教育・学習にも意義があるし、あり方ややり方を考えるべきだというのが我々の立場である。本稿では、日本人（日本語話者の学生）履修者にまつわる問題、言語能力と学習の問題、対象とすべきロシア語の姿を話題とする。

学習者の学習動機は現代と過去で違うし、また、いわゆる一流校の専攻課程と中堅校の非専攻課程を同列に論じても意味が無い。過去の学習者あるいは専攻課程の学習動機と背景については、以下のように物語ることができるだろう。かつて、優れたソ連があり、共産主義への憧れがあった。ロシア文化への憧れもあった。憧憬の対象がソ連でも古きロシアでもとにかく憧れがあった。ロシア語は難しいとか共産圏の言語だというおおむね否定的なイメージが共有されていて、難しいから履修する者もいたし、ロシア語履修で一定の

ル語, 13. ミャンマー語, 14. ロシア語。

²³ <http://roshianow.jp/news/2013/12/26/46609.html>

<http://roshianow.jp/news/2014/01/13/46725.html>.

²⁴ 2013年8月19日付けでタス通信報道。「2012年にロシアから日本に来た学生は333名、日本からロシアへはわずか110名だった。」http://roshianow.jp/news/2013/08/19/5_44643.html

レッテルを貼られることへの覚悟もあった。ソ連とのチャンネルは日本にもあって少数の交流団体が存在し、プロの通訳や専門商社が活躍していた。そのうちペレストロイカがあって、一時的にロシア語ブームとなり、今まで隠されていたものが急速に明るみに出て紹介が続き、その中でロシア語学習を始める者も現れた。しかしソ連が崩壊し、経済危機が続き、日本の教育でも外国語学習の法的枠組みが変化して大学によってはロシア語科目が削減された。しかし、ロシアが BRICs として持ち上げられる時代も来て、日露関係はバラ色とは言えないまでも日本企業がロシアに進出するなど交流も進んでいる。学習者の関心も、かつての限られた範囲から文化全般、スポーツ、バレエ、音楽と広がっている。以上は、プラス・マイナスともにロシアに対するイメージがあつての話である。

そもそもロシア人の日本に対する思いよりも日本人のロシアに対する思いは薄いですが、現在の非専攻課程の学習者にプラス・マイナスともにロシアに対するイメージは希薄である。履修者の中にはロシア語は易しそうだからと告白する者もいる。ロシアが怖いとかロシア語は難しいといった先入観やステレオタイプがないということでもあるので嘉すべきことでもあるが、総じて言えば、ロシアに関する全般的な無知と無関心がある。一方で、一部のプロがロシアと専門的につき合うのではなく一般の人がそれぞれの都合でロシアと関わる時代になったということでもある（もちろん、様々な分野の研究者が必要に応じてロシア語を使うということは昔もあったし、今も多少はある）。上述のごとく、非専門家にとってロシアと関わる場面が増加したのである。世俗と距離を置いてロシア文学を読んで心豊かな生活を送るのでも良いのだが、ロシア語を使って儲かるかが気になるところである²⁵。ここでは大学書林国際語学アカデミー（DILA：現ディラ国際語学アカデミー）言語別の受注時間数順位を示す（表 1）。DILA の外国語講師が民間企業での語学研修にどのくらい派遣されたか、つまり日本の民間企業がどの言語を社員に学習させたがっているかの順位で、1990 年と 2000 年に第 11 位だったロシア語は、2010 年には中国語・英語・ポルトガル語について第 4 位になっている。10 年でロシア語がかなり順位をあげたことが見て取れる。もっともロシア語が難しいことは事実で、同じく DILA のデータでは、ロシア語は日本人にとってもアメリカ人にとっても難しく、その学習には、たとえば、韓国語の倍の時間がかかるとされている（佐藤 2007:269）。韓国語では 50 時間で習得できることがロシア語では 100 時間かかるということである。教育・学習に当たってこうしたことを明示的に示すかどうかは議論の余地があるものの留意すべき事柄である²⁶。

ちなみにドイツでもロシア語ブームが去ったが、盛り返す策を講じ、目下「外国語としてのロシア語はより人気が出てきている(Russisch als Fremdsprache immer beliebter)」という。その方策はさまざまなコンクールや宣伝活動であつて、例えば Russiamobile なる宣伝自動車ドイツ国内の教育機関を回って、子供達にロシア語・ロシア文化の紹介をしている

²⁵ この辺りのことは井上史雄の一連の言語経済学「市場における言語の価値判断」（井上（2011）など）やクルマス（1993）などで既に提唱されている価値基準などを用いて考察できるだろう。

²⁶ 本問題は小林（2011）でも論じた。

る²⁷.

アメリカでも「ロシア語の勧め」が見られる。以下は Ben Rifkin の見解を Florida State University が自校に当てはめたもので、10 項目ある。

1. アメリカ合衆国政府は、今以上にロシア語の専門家を必要としている。
2. ロシアはその地域では強国であるし、列強の地位に戻りつつある。
3. ロシア語はロシア経済への関与を高める。
4. ロシア語は科学技術にとって重要な言語。
5. ロシア語話者は 2 億 7 千万人。
6. 世界の最も魅力的な文化を学ぶうる。
7. ロシア語は、他の多くの学問領域と良く結びついている。
8. ロシア語学習は大学院進学の手助けとなる。
9. ロシア語学習者はその後のキャリア形成に有利。
10. フロリダ大学のロシア語課程の評価は高い²⁸。

ロシア語の代わりに中国語なりを代入しても当てはまるとの見方もあるが、列挙されていることに間然するところはなく、また教育現場の一事例として興味深い。

外国語としてのロシア語教育・学習を考察する際にも、バイリンガルの効能や言語能力複数説は議論の前提として念頭においておくべきだろう。Cummins らが提唱していることである。前者は、「車輪が 1 つでも、ある程度先に進める。大きい車輪が 1 つと小さい車輪があれば、もうちょっと先まで行ける。空気がきちんと入った車輪が 2 つあれば遠くまで行ける。でも、2 つ車輪があっても、両方の空気が抜けていたらどこにも行けない」（中島 2013:11）ということである。その際、言語は、生活のための言語(Basic Interpersonal Communication Skills: BICS)と認知や学習に必要な言語能力(Cognitive Academic Language Proficiency: CALP)に分かれる。バイリンガル児童が流暢に喋れても本が読めるとは限らないということだが、現在ではこの区分は、会話の流暢度 (Conversational Fluency: CF)、弁別的言語スキル (Discrete Language Skills: DLS)、教科学習言語能力 (Academic Language Proficiency: ALP) (中島 2013:7) の 3 つにされている。

日本のロシア語学習も文献講読から新たな形態へとシフトしている。なかでも 2001 年にヨーロッパ評議会が提唱した CEFR『言語共通参照枠(Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment)』とそれを意識したロシア本国のロシア語検定試験 ТРКИ (Тестирование по русскому языку как иностранному)はホットな話題である。日本のロシア語教師もこれを無視することができない。同時に CEFR の能力

²⁷ 2014 年 1 月 3 日付けの記事。

http://russland-heute.de/gesellschaft/2014/01/06/russisch_als_fremdsprache_immer_beliebter_27537.html
「日本におけるドイツ年 2005/2006」での「ドイツ語キャラバン」を彷彿とさせる。ドイツ国旗カラー・黒・赤・金(黄)の 3 台のフォルクスワーゲンが日本各地の高校、大学を訪問した。

²⁸ Department of Modern Languages, Florida State University (2013).

基準をそのまま利用するのではなく、CEFR が説くところの理念—複言語主義、母語話者モデルの否定、生涯学習、自律学習、行動中心主義など—を論じようという動き、すなわち CEFR の文脈化の動きも見られる²⁹。もっともロシア本国での文脈化の動きははっきりしない。

なお、ロシアとの交流が進み言語教育が変化しても、それが直ちにロシア語学習とは結びつかないし、履修者が増えることにも繋がらないことは認めざるを得ない。日本人がロシア人と付き合うのにロシア語が必ずしも要るわけではない。ある程度のスパンで見て日本に於けるロシア語履修者数は減少しており、筆者はそれを是としてないが、日本にとってロシア語は学ぶ価値がないからだ、教育機関に科目を設置するに価しないからだ（限られたリソースの中で優先順位が低い）という見解は受け止める。民意は常に正しいのかもしれない。しかし「教育とは家庭環境が与えないものを与えることである／教育とは、さらには、市場が与えないものを与えることである」（水村 2008：267, 317）し、大学は大学に來なければ知り得なかった価値を学生に知らしめる場である。ロシア語はそのような価値の一つであると信じる。その価値とは、すり切れた文言で言うしかないが、異文化への扉ということであろう。

では、どのようなロシア語—国際語としてのロシア語—を教授対象とすべきか。

国際語とされる英語について、近年、その多様性が指摘されている。Kachru は“World Englishes (WE)”なる概念を提唱し、世界の英語の姿を三つに分類し、言語規範／「標準」設定のパターンを立てた。すなわち、

- ・内円 (Inner Circle)：英語を母語として使用する地域の英語 (ENL: English as a native language), 「標準を生み出す変種」
- ・外円 (Outer Circle)：英語を第 2 言語として使用する地域の英語 (ESL: English as a second language), 「標準を発展させる変種」
- ・拡大円 (Expanding Circle)：英語を外国語として使用する地域の英語 (EFL: English as a foreign language), 「標準を身に付ける変種」 (Kachru 1985)

このように複数の英語を立てた上で、拡大円の英語をも認めていくべきとの議論をするのである。ここでは外円の英語の土着化や母語化が主たる関心事となり、拡大円の者は内円の英語をひたすら学習することになる（藤原 2012:28-30）

これを、国際語あるいは族際語としてのロシア語を考えるモデルとして当てはめると

- ・内円：ロシア連邦国内外の母語話者が使うロシア語（ロシア語の標準）
- ・外円：ロシア連邦内非母語話者、旧ソ連の非母語ロシア語使用者の第 2 言語としてのロシア語（標準を発展させる）
- ・拡大円：ロシア語を外国語として学ぶ地域のロシア語（標準を学習する）

²⁹ 「新しい言語教育観に基づいた複数の外国語教育で使用できる共通言語教育枠の総合研究（日本学術振興会科学研究費補助金課題番号：23242030 代表：西山教行）」<http://www.education-langue.com>

となろう。

英語の場合、既にノンネイティブどうしのコミュニケーションが英語での全コミュニケーションの75%とも80%とも言われ、ロシア語と同列とは言えないかもしれない。しかし、英語の場合でも標準はあくまでも母語話者の英語という³⁰。

国際語としての英語の概念的枠組みとしてWEの他にEnglish as an International Language (EIL)やEnglish as a Lingua Franca (ELF)が提案されている。EILは母語性・制度性（英語が第1言語もしくは第2言語の国か）を問わず、国際コミュニケーションで使われるのであればその変種を認め、また「学習者」は「使用者」でもあるとする（藤原2012:27）。ELFでは国際語としての英語の機能に注目し、英語の多様性を評価しつつも相互理解を可能とする統一性を重要視（遵守すべき「共通核 common core」の解明など）する。拡大円での英語への関心に特徴があり、当該地域の英語話者を「学習者」でなく積極的に「使用者」と見なす（藤原2012:32-36）。

ロシア語の場合、「ロシア語自体も以前も現在も諸言語の影響を被ってきている」（Санникова2014:36）。しかし、これはロシア語の変種が母語話者のロシア語に影響しているということではなく、別の言語のロシア語への影響の話である。外円のロシア語話者の使用が内円で受け入れられる場合も、他言語からの影響と同じような道程をとるであろう。内円の中でコード化されねばならないのだ。もっともコード化はРозенталь Д.Э. (1899/1900-1994)のような人物が行っても良い。彼はポーランド生まれで訛りもあったと仄聞するが、ロシア語正音法正書法の制定者である。

拡大円地域のロシア語の扱いも問題である。ロシア語話者移民のロシア語はネイティブのものだが、移住先での影響や世代を経ての変化は免れ得ないし、非母語話者のロシア語をどの程度認めるかもロシア語の国際性を考えるポイントになる。教科書等では非母語話者留学生がものしたとされるロシア語が提示されることがあるが、日本ロシア語といったものを認めて許しているわけではあるまい。

一般に、ロシア語のピジン化の度合いは少ないとされている³¹。ウズベク語を例に取る

³⁰ 日向（2010）は以下のように述べている。「英語は、一説によるとノンネイティブのユーザーが3：1でネイティブのユーザーを上回っていると言います。こうなって来ると、世界語としての英語とでも言うべきものが形成されつつあり、いずれ、われわれが日頃目にする英語圏ベースの英語とは違ったものをお手本にしなければならないようにも思えますが、わたしの見る所、結局は、ノンネイティブたちも英語圏の普通の英語をお手本としており、その意味では英語圏の英語、つまりはネイティブ・スピーカーの英語が、ことの是非は別として、ともかく『標準語』なんだろうなと思います。」一方で、「英語がノンネイティブの世界での共通語として使われていても、ノンネイティブもネイティブと同じ種類の英語を使っているわけで、ノンネイティブ独自の英語があるとは言えないようで」「ノンネイティブたちも元祖であるネイティブの英語を基準にしている」のである。しかし、ネイティブを「単なる標本の提供者でしかないという見方」とすることも可能であり、「実際、英語が業務上の標準語として指定されている関係で、ネイティブたちがネイティブ流に好き勝手な英語を話すことを封じられている例もあります。国際民間航空機関(ICAO)の業務規定では、ネイティブたちは non-standard な英語を使うことを封じられ、『標本然』としていることが求められている」という。

³¹ 変種として、中世起源のФеня、ウクライナ語とロシア語の性質を持つというСуржик、ベラルーシ語とロシア語の特徴を持つというТрасянка、ドイツ語とロシア語の疑似ピジンQuelia、ロシア

と、菅野裕臣の観察によれば「つまり実は朝鮮語—英語，日本語—英語ほどに差異の激しいウズベク語—ロシア語の関係においてウズベク人がロシア語を習得した過程では，われわれとは比較にならないほどの方法が取られたに相違ない」（菅野 2005）とされ，英語における内円外円の違いよりもロシア語の内円外円の違いは少ないと考えることができる．また，旧ソ連のロシア語の肯定的役割も指摘されるところで，「ウズベキスタンがロシア語を放棄するという事はある意味ではロシア語による利点をも放棄することを意味するのである」（菅野 2005）との指摘はおそらく正しい．

菅野はコードと下位コードについても言及している．ここでのコードというのは言語であり，下位コードはその言語内の要素と捉えておいて良い．ドイツ語やロシア語は，外来語も自前の要素で処理して受け容れてきたため下位コードは一つであり，英語というコードの下位コードは複数で，その起源から言ってゲルマン語があり，ラテン語フランス語のおびたしい要素があって，ラテン語フランス語の下位コードを抜きに英語を語ることはできない．日本語も同様に，大和言葉，漢語，外来語，そしていまや英語も下位コードとして取り入れ，複雑な様相を呈している（菅野 2005）．ロシア語そのものが変わりつつある，あるいはかつては非母語話者の目から隠されていたものが表に出てきていることを踏まえると（参照 Санникова 2014）ロシア語も複数の下位コードを考えるべきである．ロシア語にあっては内円外円の差は少ないが，内円内でのコードの複数化が更に際立ってきたということだろう．

そして，良くも悪くもロシア語はロシア文化志向である．筆者はロシア語母語話者に，ロシア語で示される価値観・様式がロシア文化外でも通用するとの思いを感じる．ロシア語およびロシア文化そのものが，一方で族際性を強調しつつも，普遍性を主張し，ロシア語教育でもややもすればロシアへの参入を促す（教科書名が象徴的である．曰く『ロシア内への道』『ロシア内への窓』『ロシアで暮らし学ぶ』『ロシアへの招待』等々³²）．学習者はロシア語の世界はロシア人の世界だけだと誘導されてしまう．このような事情を知ると鳥飼の次のような発言は重みを持つ．「現時点では国際共通語としての英語に限って教える方が無難だと思っています．そうでなければ，世界はアメリカがすべて，のようになってしまう．それは異文化理解だとは思いません」（鳥飼 2013）．然り．世界はアメリカが全てでもロシアが全てでもない．ロシア語はより広い文化で使われている（し，ロシア語自体も諸言語の一つである）ことを教師も学習者も意識すべきである．

しかし，現状では，学習対象すなわち学習者が習得を目指すべきは内円のロシア語である．英語でも規範をネイティブに求めるのであり，当然のこととも言える．だが，国際語

語・ノルウェー語ピジンの Russenorsk などがあるというが，本稿の考察範囲を越える．Ministry of Education and Science of Russia (2006-2013)内 <http://en.russia.edu.ru/russian/ref/>

³² Антонова В.Е., Нахабина М.М., Сафронова М.В., Толстых А.А. «Дорога в Россию», Скороходов Л.Ю., Хорохордина Л.В. «Окно в Россию», Капитонова Т.И. и др. «Живем и учимся в России», Корчагина Е.Л. и др. «Приглашение в Россию». 版元は前3点がペテルブルクの Златоуст社，最後の1点はモスクワの Русский язык. Курсы社でいずれも版を重ねている．

としてのロシア語を求めるとするのであれば、内円の全てを学ぶのは非効率的であるし、あまりにも負担が多い。文化的に根付いた熟語の類まで、あるいは動植物のあらゆる象徴まで学ぶのは不可能とすら言えよう。ロシア語母語話者の発言権を認めつつも、彼等が非母語話者のロシア語をどこまで許すかで状況は変わる。「国際化（拡大化）すれば、必ず多様化する」(Honna 2008: 10)。国際化するためには別のコードの存在を許さなかったロシア語も変種を認めなければならない³³。その上であるいは共通核を定めることになる。

単一民族単一言語とさえ言われた日本の場合も状況が変わりつつある。日本語は日本人だけのものかという問題が、200万人のいわゆる「外人」が居る中で論じられている。既に日本語が日本人の手を離れて使われる状況になって、「当の日本人よりも先に、日本語という言語が国境を越えて用いられるようになり、『国際化』してしまった」(荒川 2009:238)のだ。その中で、「変に聞こえる日本語でも、楽しむくらいのゆとりが必要だ」(吉村公宏の言：荒川 2010:277)との見解や「違ってもだいたい同じ」(荒川 2010:210)と非母語話者の日本語を認める意見が出されている。英語の場合でもこのようなことが例えば鳥飼(2011)などで提唱されている。ロシア語も複数のロシア語(русские языки)があつて、日本人が習得し使うのは、そのうちのひとつたる日本人ロシア語で良いと理念として主張することもできよう。事実、英語学習では、英語ネイティブの英語をモデルとはするが、ターゲットとはしない、ネイティブのような英語でなくて構わないという主張がなされ、既に学生自身が積極的にそのような態度をとろうと表明すらしている(例えば川上 2011)。我々も国際語としてのロシア語を非専攻課程で考えるのなら、ロシア人のロシア語をモデルとするが、ターゲットにしなくて良いとする態度をとることが可能である。

4. おわりに

今ひとたびなんのためのロシア語学習かを振り返ってみたい。

実用・教養の軸は、本当に語学力がつけば意味のない対立であると捉える向きもあるが、教育現場では問題になる。ある優秀な経済学部生は、ロシア語講読の時間に経済論文を読もうという筆者の提案に対して、こう言い切った。「経済関係のものは英語で読めるので、ロシア語の授業ではチェーホフを読みましょう」。政治や経済、疾病対策・紛争解決のための言語、すなわち国際語としての言語教育は英語教師に任せておいて、第2外国語教師は個別文化の理解、教養教育に取り組みれば良いとさえ思うことがある。しかし、実利は重要で、ロシアの地政学的位置は、我々が教養に逃げ込むのを許さない。

Cummins はバイリンガリズムを自転車に喩え、欧州評議会では母語+2言語が提唱されているが、いろんな言語能力のかたちがあつて良い。母語と英語、若干の補助的な言語、

³³ もしくは母語話者のロシア語を効率よく習得できる革命的方法の開発。しかし、それは母語話者モデルを採用するということである。ロシア語母語話者の発言権を認める以上、彼等が多様化を拒否するならそれを認めることになる。ロシア語がドメスティックな言語であることを彼等が望むならば、我々はそれを受け入れる。その場合ロシア語を学ぶのは、ロシアという魅力的な国を知り、その国民と付き合うためである。そうしたロシア語教育は結局、今のものと変わらないだろう。

あるいはメインとなる言語を中心に複数の言語が続くタイプ、メインの言語が複数あるタイプといったものである。確かに言えることは「三輪車は一輪車や二輪車より遠くまで行けるし、荷物も積める」、すなわち「複数の言語の知識・能力はその担い手にとって世界を広げる」ということである。

言語能力は上をみれば切りがないが、学習の実際では何かをモデルとしターゲットとすることになる。モデルとターゲットが同じこともあるが、国際語としてのロシア語を非専攻課程で学習するという場面に於いては異なっても良い。但し、言語コミュニケーションは相手あってのもの。日本人学習者・教師がここで最も知りたいのは、もう一方の当事者である（内円・外円・拡大円の）ロシア語話者はどのようなロシア語を（拡大円の日本の）非母語話者に求めているか、ということである。リンガフランカとしての英語(ELF)の術語を使うならば、国際語としてのロシア語の共通核は何かということである。

暫定的な結論をだし問題提起にかえたい。

1. ロシア語は日本人学習者が学習する複数の異言語の一つである。大言語で隣語であるが、英語の意味のような国際語ではない。ロシア語に人生をかけても良いがかけなくても良い。大事なのは教師も学習者も大きな文脈の中でロシア語を位置づけることである。
2. ロシア語の国際性を考えつつも、現時点でのロシア語学習に於いてはロシア人のロシア語、しかも標準語をモデルとするのが妥当である。実際にロシア本国のロシア語教育に於いてもロシア語の多様性は認められていないし、教材化されて紹介されることもない。また教授者・学習者にとって ТРКИ の存在は大きく、常に念頭に置かざるを得ない。ТРКИ の背景にあるはずの CEFR を単なる習得基準を示した道具として使うのは問題だが、現に我々がモデルとするロシア本国でこの試験を使っている以上、それが日本でのロシア語教育・学習にも反映される。
3. 国際性の理念から言えば、母語話者のロシア語を必ずしもターゲットとしなくても良い。ロシア語母語話者以外のロシア語もモデルにもターゲットにもなりうる。更に言えば、日本人のロシア語「使用者」のロシア語が日本人学習者にとってはターゲットとなるはずである。ロシア人のロシア語を学ぶが、それと違って、学習の失敗ではなく使用の違いと見なすということである。
4. しかし上記のことは目下、理念の話である。ロシア語が変わることができるか、ロシア語母語話者の意識が変わり、それを教育に反映できるかが問題で、今後の推移次第である。
5. ロシア語教育を異文化理解の一つの扉にする。但し、ロシア語の国際性を言うなら、ロシア語をロシア文化への鍵のみと思ってはならない。また、単なる異文化理解に還元されない異文化間教育が想定できる³⁴。

³⁴ 上述西山科研はこれを目指している。 <http://www.education-langue.com/eventos/colloque2014>

大学教育の中でのロシア語教育について付言する。先ほどの経済学部生が大学でチェーホフをロシア語で読んで、卒業してロシア語を完全に忘れたとしても大学のロシア語教育は成功だったと筆者は主張する。中途半端に沢山の言語を大学で「かじる」というのにも意味がある。しかし、大学は公の教育機関であるから教師は何をどこまで取り組むかを学生や社会に示す必要がある³⁵。そして、公的かつ共通な尺度で学生を評価する責任が教師にある。習得や現実での使用を意図しない習得基準もあり得るはずだ。

教育は社会のリソースの分配の問題である。現在は、大学側が枠組みを作り、学生がそこから履修言語を選択することになっているが、日本国が、国にとって必要な人材の数（ロシア語に通じている者の数）を算出し予算を組み、公教育でその人材を育成するということも考えられる。ロシア連邦でのような方式である。しかし、権力が履修者を案配し学習を強制するのは人権にも関わる問題でもあるし、国が方向を間違える可能性も常にある。市場に任せるのも駄目である。市場が与えない価値を与えるのが公教育の役目なのだ。個々の教師としては個人で解決できないこうした状況の中で誠実に取り組んで行くしかない。

具体的方策は教育現場の事情による。留学は一つの有効な方策である。カリキュラムを工夫することは常に行われている。学生は「自律的」であるべきで自分で考えさせよという意見もある。しかし、学生が何もかも自分でできるなら学校という組織は不要なのであって、そうした意見は一見真っ当なようであって実は教育者の責任放棄である。

³⁵ これは学生が理解できるかとは別のことである。そもそも学習内容を全て分かっているのなら学生は授業に出る必要はない。シラバスに何が書かれているかも分からないから授業に出るのだ。

表 1：大学書林国際語学アカデミー（DILA） 言語別の受注時間数順位

順位\年	1990 年	2000 年	2010 年
1 位	英語	英語	中国語
2 位	フランス語	中国語	英語
3 位	ドイツ語	タイ語	ポルトガル語
4 位	日本語	スペイン語	<u>ロシア語</u>
5 位	中国語	アラビア語	スペイン語
6 位	ポルトガル語	インドネシア語	タイ語
7 位	タイ語	韓国語	韓国語
8 位	インドネシア語	ベトナム語	インドネシア語
9 位	韓国語	ポルトガル語	フランス語
10 位	スペイン語	ドイツ語	ドイツ語
11 位	<u>ロシア語</u>	<u>ロシア語</u>	ベトナム語
12 位	アラビア語	ラオス語	日本語
13 位	イタリア語	福州語	ヒンディー語
14 位	マレーシア語	モンゴル語	アラビア語
15 位	トルコ語	フランス語	ペルシア語

（日本経済新聞 2011 年 11 月 8 日：下線強調小林）

参照文献：

インターネット上の報道，プレスリリース，短信は省いた．ネット上のものであっても報告，論文の体をなしているもの，著者名を明記すべきものは取り上げた．注内も含め Web ページに関しては 2014 年 1 月 10 日に表示を確認した．

Department of Modern Languages, Florida State University. 2013. “Top 10 Reasons to study Russian”, <http://www.modlang.fsu.edu/Programs2/Slavic-Languages-Russian/10-Reasons-to-study-Russian>

Honna Nobuyuki. 2008. *English as a multicultural language in Asian contexts: Issues and ideas*, Tokyo:Kuroshio publishers.

Kachru Braj. 1985. “Standards, codification and sociolinguistic realism: The English Language in

- the outer circle,” in *English in the World: Teaching and learning the language and literature*, Ed. by R.Quirk and H.G.Widdowson, Cambridge: Cambridge University Press, pp.11-30.
- Kornai András. 2013. “Digital Language Death” , *PLOS ONE*,
<http://www.plosone.org/article/info:doi/10.1371/journal.pone.0077056#pone.0077056-Darwin1>
- Ministry of Education and Science of Russia. 2006-2013. *Education in Russia for Foreigners*,
<http://en.russia.edu.ru/>
- Голубева А.В. 2011. *Мы живём и работаем в России. Русский язык для трудовых мигрантов*, СПб.: Златоуст.
- Гончар И.А. 2010. *Такая разная Россия: Учебное пособие по страноведению*, СПб.: Златоуст.
- Замятин К., Пасанен А., Саарикиви Я. 2012. *Как и зачем сохранять языки народов России?* Хельсинки: <http://finugor.ru/node/25780>
- Кобаяси Киёси. 2013. «Современное состояние преподавания русского языка в Японии», *«Современная филология в международном пространстве языка и культуры»: Материалы III Международная научно-практическая интернет-конференция (Астраханский государственный университет, 26 февраля – 26 апреля 2013 г.)*, Сост. Лаптева М.Л., Астрахань, С. 128-130.
- Кряхтунова О.В. 2013. «Проблемы детей, для которых русский язык не является родным, при обучении в начальной школе», Этноконфессиональный совет при Губернаторе Астраханской области: <http://etnokonf.astrobl.ru/document/1511> [25/02/2013]
- Министерство образования и науки Российской Федерации. 2006-2013. *Российское образование для иностранных граждан*, <http://www.russia.edu.ru/>
- Санникова Н.Ю. 2014. «Языковая ситуация в современной России», *Russian Linguistics and Language Education IV*, Ed. by TSUTSUMI Masanori, Yokohama: The Eurasia Research Centre Kanagawa University. pp. 35-46.
- Цуцуми Масанори, Кобаяси Киёси. 2011. «Преподавание русского языка как непрофилирующего предмета в Японии», *Русский язык и литература во времени и пространстве*, Ред. Вербицкая Л.А., Лю Лиминь, Юрков Е.Е., Т.3., Шанхай: Shanghai Foreign Language Education press, С. 521-524.
- 荒川洋平.2009.『日本語という外国語』.講談社.
- 荒川洋平.2010.『とりあえず日本語で もしも…あなたが外国人と「日本語で話す」としたら』.スリーエーネットワーク.
- 井上史雄.2011.『経済言語学論考—言語・方言・敬語の値打ち—』.明治書院.
- 奥村圭子.2011.「英語の留学生政策の推移—我が国の大学での留学生受入れへの示唆—」,

- 『留学交流』（独立行政法人日本学生支援機構）2011年4月号 vol.1, pp.1-7.
<http://www.jasso.go.jp/about/documents/keikookumura.pdf>
- 川上千晶.2011.『「ネイティブ志向」か「国際志向」か—日本人にとっての「正しい」英語の姿とは何か—』.早稲田大学文化構想学部複合文化論系言語文化ゼミ2 2011年度卒業論文.
- 菅野裕臣.2005.「言語とコード」,『菅野裕臣の Autobiografie X) 菅野雑記(4)』,
<http://www.han-lab.gr.jp/~kanno/cgi-bin/hr.cgi?autobio/x4-langencode.html>
- クルマス=フロリアン.1993.『ことばの経済学』.大修館書店
- 小林潔.2011「ロシア語教材を見直す—非専攻課程習得基準の策定を念頭に—」 堤正典・小林潔編『ロシア語学と言語教育Ⅲ』（神奈川大学ユーラシア研究センター, 2011〔平成23〕年3月）: 11-34頁.
- サヴェリエフ=イゴリ.2010.『(報告書)平成19-21年度科学研究費助成金(基盤B)課題番号19401042 研究成果報告書「東北アジア(日中韓露)における朝鮮族の拡散と新コリアン・ネットワーク形成の研究』」.
- 佐藤巨呂.2006.「学びやすいアジアの言語 —外国語研修レポートより」,砂岡和子・池田雅之編『アジア世界のことばと文化』（成文堂）, pp.255-272.
- 須佐多恵.2012.「フィンランドにおけるロシア語教育—異言語,そして母語として—」,
『ロシア語教育研究』（日本ロシア語教育研究会）第3号, pp.59-69.
- 東京三弁護士会・刑事弁護センター.2009.『当番弁護士マニュアル』.
- 独立行政法人労働政策研究・研修機構.2012.「海外労働情報 ドイツ(2012年11月)」,
http://www.jil.go.jp/foreign/jihou/2012_11/german_01.htm
- 鳥飼玖美子.2011.『国際共通語としての英語』.講談社.
- 鳥飼玖美子.2013.「(対談)第1回:『なぜ英語を学ばなければならないのですか?』」,特定非営利活動法人日本教育再興連盟, <http://kyouikusaikou.jp/activity/taiwapj/>「英語教育」対談/torikaikumiko/
- 中島和子.2013.(講演録)「日ロ・バイリンガル育成のための継承ロシア語の保持・伸長—心理的要因と社会的要因を中心に—」,『ロシア語教育研究』（日本ロシア語教育研究会）第4号, pp.1-17.
- 日向清人.2010.「ノンネイティブの英語」,『日向清人のビジネス英語雑記帳』（2010年2月27日）, http://eng.alc.co.jp/newsbiz/hinata/2010/02/post_682.html
- 藤原康弘.2012.「コーパス言語学と国際英語関連分野(EIL, WE, ELF)の学際的領域—英語使用者コーパスの必要性—」,『外国語研究』（愛知教育大学）45, pp. 21-52.
- 水村美苗.2008.『日本語が亡びるとき—英語の世紀の中で』.筑摩書房.

学習者にとってロシア語の国際性とは何か

— 問題提起にかえて —

小林 潔

日本人学習者にとってのロシア語の国際性を論じる。論じるにあたり、外国語としてのロシア語の属性を挙げる。また、現在の日本の非専攻課程のロシア語履修者の姿を念頭に置く。バイリンガル研究、CEFR の理念に留意し、国際語としての英語で用いられている枠組みも援用する。ロシア語の国際性をめぐって以下の 5 点を挙げる。

1. ロシア語は日本人学習者が学習する複数の異言語の一つである。大言語で隣語であるが、英語の意味のような国際語ではない。
2. ロシア語の国際性を考えつつも、現時点でのロシア語学習に於いてはロシア人のロシア語、しかも標準語をモデルとするのが妥当である。
3. 国際性の理念から言えば、母語話者のロシア語を必ずしも教育・学習のターゲットとしなくても良い。ロシア語母語話者以外のロシア語もモデルにもターゲットにもなり得る。
4. しかし上記のことは目下、理念の話である。ロシア語が変わることができるか、ロシア語母語話者の意識が変わり、それを教育に反映できるかが問題で、今後の推移次第である。
5. ロシア語教育を異文化理解の一つの扉にする。但し、ロシア語の国際性を言うなら、ロシア語をロシア文化への鍵のみと思ってはならない。